

第4回 池袋駅周辺地域再生委員会 交通検討部会

議 事 録

I. 日 時：令和元年10月21日（月）18:00～20:00

II. 場 所：豊島区本庁舎 5階 507会議室

III. 部員名簿：

区 分	所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
部会長	横浜国立大学 教授・副学長	中村 文彦	
副部会長	東京大学 工学研究科 社会基盤学専攻 教授	羽藤 英二	欠席
〃	イーグルバス株式会社 顧問	坂本 邦宏	
〃	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	大沢 昌玄	
部員	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	青柳 太	
〃	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官	奥田 謁夫	欠席
〃	東京都 都市整備局都市づくり政策部 土地利用計画課長	高橋 竜太郎	代理
〃	東京都 都市整備局 都市基盤部 交通企画課長	長尾 肇太	代理
〃	東京都 都市整備局 都市基盤部 交通計画調整担当課長	江水 淳	代理
〃	東京都 都市整備局 都市基盤部 街路計画課長	神子 信之	代理
〃	東京都 建設局 道路管理部 安全施設課長	水飼 和典	代理
〃	警視庁 交通部管理官 都市交通管理室長	椎名 啓雄	
〃	警視庁 池袋警察署 交通課 課長	三橋 仁美	欠席
〃	警視庁 目白警察署 交通課 課長	和田 誠	
〃	警視庁 巣鴨警察署 交通課 課長	塩田 竜也	
〃	一般社団法人東京バス協会 常務理事	二井田 春喜	代理
〃	公益財団法人東京タクシーセンター 指導部 施設管理課長	玉田 隆広	欠席
〃	東京商工会議所 豊島支部 会長	鈴木 正美	欠席
〃	豊島区商店街連合会 会長	足立 勲	代理
〃	豊島区町会連合会 副会長	塚田 義信	欠席
〃	豊島区観光協会 名誉会長	齊木 勝好	欠席
〃	豊島区 副区長	呉 祐一郎	
〃	豊島区 都市整備部長	奥島 正信	
〃	豊島区 都市整備部 土木担当部長	原島 克典	

IV. 議事次第

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事
 - 1) 第3回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会議事の確認
 - 2) 南北区道の歩行者優先化の検討について（資料1、資料2）
 - 3) 池袋副都心交通戦略の更新について（資料3）
4. その他
5. 閉会

V. 配布資料

議事次第

資料1 南北区道の歩行者優先化の検討と実証実験の計画

資料2 荷さばきルールお願いチラシ（案）

資料3 池袋副都心交通戦略の更新

資料4 第4回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会 委員名簿

参考資料1 第3回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会議事録（案）

参考資料2 実証実験計画書（案）一式

- ・実証実験計画書（案）
- ・歩行者優先施策実験実施マニュアル
- ・交通状況調査実施マニュアル
- ・アンケート調査実施マニュアル
- ・周知・広報実施マニュアル
- ・安全管理・緊急時対応マニュアル

VI. 議事概要

○開会

（事務局）

- ・前回（6月3日）の第3回交通検討部会では、南北区道の歩行者優先化に向けた検討において課題となっている荷さばき車両への対応方法と実証実験の実施について及び国土交通省の「都市・地域総合交通戦略要綱」の改定を受けた池袋副都心交通戦略の数値目標となる新たな指標の追加についてご議論いただいた。本日は、実証実験の実施計画がまとまったのでその内容と池袋副都心交通戦略の更新についてご議論いただきたい。

○傍聴者の確認

（傍聴者なし）

○資料の取り扱いについて

- ・資料1～資料4は公開、参考資料1と参考資料2は非公開とする。

○事務局より「第3回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会議事の確認」の説明

(中村部会長)

- ・1箇所誤字があるので修正すること。

(事務局)

- ・再度確認し修正する。

(中村部会長)

- ・誤字の修正は事務局に一任するというので、議事録については承認ということによいか。

(一同)

- ・異議なし。

○事務局より「資料1：南北区道の歩行者優先化の検討と実証実験の計画」の説明

討議内容は以下のとおり。

(中村部会長)

- ・前回の交通検討部会の議事録で、部会長の発言として「次回の部会を実証実験の直前まで行わないで大丈夫か」という発言があるが、結局部会の開催は実証実験の直前になってしまったが、事前に関係機関とは調整し準備はできたという理解によいか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(大沢副部会長)

- ・荷さばきスペースを設置するWACCAは屋内の地下駐車場であるため高さ制限について記載があるが、ヤマダ電機の荷さばき場と新区民センターについても写真を見ると建物の1階部分で天井があるので、高さ制限は考慮しなくても大丈夫か。

(事務局)

- ・ヤマダ電機の荷さばき場については、通常営業時に比較的大きなパネルバンも入庫しているので、高さについては大丈夫だと認識している。新区民センターの高さ制限については、確認する。

(坂本副部会長)

- ・サンシャイン通りは既に車両通行規制が実施されているので、サンシャイン通りの入口の誘導員は既存の規制を守らせるということに重きを置いて誘導すると、車両の流入を抑止する効果はかなり上がるのではないか。

(事務局)

- ・ご指摘のとおりかと思う。昨年度の実証実験でも通行規制が掛かっているにも関わらず進入してしまう車両がいる実態を確認している。過年度の実証実験でも進入しようとする車両に対しては誘導員が車両通行規制であることをドライバーに伝える対応をしているが、そういったことも踏まえて、本年度は車両通行規制であることを強くドライバーに伝える対応をしていきたい。

(大沢副部会長)

- ・荷さばきスペースの確保について、今回多くの地元事業者にご協力いただけたが、ハレザ池袋にご協力いただけなかったのが残念である。今回は実証実験ということだが、本格実

施の際に確保した荷さばきスペースをどう運用していくのか、持続的にどう担保していくのかを考える必要があり、地元組織の関与が必要と考える。ハレザ池袋は元々区有地でもあるし、今回はオープン直前ということもあり協力をためらったとも考えられ、中長期的には何らかの関与の仕方があるのではないかと。ハレザ池袋は本格実施の際にはキーとなるような組織であると思う。

(中村部会長)

- ・事情は色々あるものの関わる方々が様々な形で少しずつ汗をかいてこそ実現するものだと思う。その上で、ハレザ池袋が先々このまちづくりに積極的に関与するという姿勢が見えるかどうかは大きいと思う。エリアマネジメントの都内の代用的な例でいうと、丸の内は様々な方々が少しずつ工夫をしてまちづくりを進めており、国内にもこういった事例が出てきている。池袋では、歩行者を大事にしてまちを元気にしていこうという取り組みに現在様々な方々が苦勞している。これに対して、先々是非ハレザ池袋にも努力して頂きたいと思う。

(事務局)

- ・ハレザ池袋には協力していただいているところもあるが、将来的に歩行者優先のまちづくりの中心となっていく施設であるので、本日の意見を踏まえて区の事業に協力していただけるようエリマネ団体へ働きかけを行っていききたい。

(中村部会長)

- ・単純に実証実験の時だけ協力してというのではなく、交通戦略やこの地区のまちづくり全体を理解してもらったうえで、これはできるこれはできないという議論にしないといけない。個別の議論だけでは駄目だと思うので、区長・副区長はじめ是非お願いしたいところである。いいまちにしていくいいタイミングであるので、個別の課題の議論だけでなく大きな枠組みのときの議論もしておいていただきたい。

(坂本副部会長)

- ・荷主への荷さばきアンケートについて、別添の荷さばきルールの特ラシを読んでからアンケートを回答するようになっているが、荷さばきルールの特ラシを読んでも何がルールなのか読み取りづらいので、可能であればもう少し分かりやすくしたほうがよい。例えば、裏面をお願いしたいルールを明記するなど。せめて設問の前に「荷さばきルールの特ラシを読んでからご回答ください」など入れないと分かりづらい。

(事務局)

- ・アンケート回答用紙は両面になっているが、荷さばきルールについての設問がある裏面の回答用紙の先頭に「荷さばきルールの特ラシを読んでからご回答ください」の記載をしている。荷さばきルールの特ラシについては、もう少し工夫したい。

(中村部会長)

- ・確認だが、荷さばきルールというのは今回の実験の時だけでなく本格実施の際にも運用するということがよいか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(中村部会長)

- ・今回のアンケートは、まずどういう実験なのかということを理解してもらい、実験に際してこういう荷さばきルールが必要という意図も分かってもらったうえで、それに対してどういう意見なのかアンケートに回答してもらうことに意味がある。だとすると、調査票に入る前に添付の資料を読んで欲しいということは記載した方がよいと思う。

(事務局)

- ・表面の先頭にも「荷さばきルールのチラシを読んでからご回答ください」の記載をすることとする。

(中村部会長)

- ・荷さばきルールのチラシについては、「お願いしたい内容」というのがルールだと思うが、これがルールだとすると、タイトルの「荷さばきルールづくり参加のお願い」というのは何なのかなど、よくよく読むと疑問が出てくる。日本語をシンプルにして分かりやすく記載してほしい。例えば、実験の時にお願いしたいルールなのか、このルールをベースに皆で考えていきたいと思いますのか、両方ならば分けて記載するなど。大事なものは見てもらうことと何をやろうとしているのかを知ってもらうことなので、工夫していただきたい。

(事務局)

- ・なるべく分かりやすく文章を工夫したい。

(高橋部員代理)

- ・荷さばきスペースの候補地として、イケブクロ・ロクマルビルの身障者用駐車場の記載があるが、身障者用駐車場を荷さばきスペースとして利用するというのはバリアフリーという観点からすると難しいので、考え方は整理した方がよいと思う。

(事務局)

- ・ご指摘のとおりだと考えている。検討過程において、一応どういう使われ方をしているのかなどヒアリングを試みようという意図で候補に挙げているところであり、当然バリアフリーという観点から荷さばきスペースとしての活用は難しいとの認識である。

(中村部会長)

- ・作業として行ったことはよいが、資料でどう見せるかは配慮が必要であろう。

(事務局)

- ・誤解を生まないよう、資料への記載の仕方については工夫をしたい。

(坂本副部会長)

- ・確認だが、実証実験中に誘導員が配布する荷さばきルールのチラシも本日の資料のチラシか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(坂本副部会長)

- ・荷さばきルールのチラシには交通規制や迂回ルートの記載がないが、これ見て荷さばきスペースへ行くルートが分かるのか。

(事務局)

- ・荷さばきルールのチラシと合わせて実証実験のチラシも配布する。実証実験のチラシの方に荷さばきスペースへの経路の記載がある。

(中村部会長)

- ・いくつか指摘があったが、今回の実証実験に向けて荷さばきルールのチラシを工夫すること、今後の話ではあるがハレザ池袋への協力依頼など対応していただくということで、今回の実証実験の実施については交通検討部会として承認するということが宜しいか。

(一同)

- ・異議なし。

○事務局より「資料3：池袋副都心交通戦略の更新」の説明

討議内容は以下のとおり。

(大沢副部会長)

- ・歩行者数のKPIの設定で、目標値を2割増加と設定しているが、サンシャイン通りの歩行者交通量が2割増加した場合、混雑しないか。歩行者が増加することは良いことだが快適性とは相反する要素もあるので、容量的に大丈夫かはチェックした方がよい。

(事務局)

- ・ピーク時で2割増加ということになると混雑する状況も考えられるが、12時間で均したときに2割増加という考えなので、適切に誘導すれば問題ないと考えている。混雑を分散させる誘導の対策として、池袋駅周辺に誘導サインの整備を進めているところである。容量的なチェックとして、サービス水準を検証することとする。

(中村部会長)

- ・道路の運用方法や幅員、交通工学での基準、実態としてピーク時がどういう状況かを考えたとき、2割増加という目標は妥当な値とは思いますが、2割増加したときに本当にネガティブな状況が起きないのか、裏で計算はしておいた方がよい。

(事務局)

- ・資料では、「各路線で2割増加」を目標として設定しているが、全体で2割増加というイメージである。

(中村部会長)

- ・歩行者が増加したときに池袋のまちがこういう風になってしまうというイメージが大事で、それを皆で共有できていけばよいと思うので、目標値の設定は工夫していただきたい。また、資料が独り歩きして読まれたときに誤解を与えないよう、文言に気を付けて直して頂ければよい。

(事務局)

- ・承知した。

(椎名部員)

- ・「交通戦略(更新版)」に、賑わいのある道路空間に関する記述を追加するということが、賑わいのある歩行者空間というのはどういうイメージか。

(事務局)

- ・賑わいのある歩行者空間を創出する路線として設定しているグリーン大通りについては、現在月1回、国家戦略特区の一環として歩道を使ってマルシェやオープンカフェを実施している。賑わいのある歩行者空間のイメージとしては、単に通行機能だけでなくそういつ

た付加価値をもった空間にするというイメージである。

(椎名部員)

- ・最近、国家戦略特区などで道路占用許可の特例により通行以外で歩道空間を使うことがあるが、通行機能との兼ね合いをしっかりと考えたうえで実施すべきだと交通管理者としては思うところである。議論が十分にされないまま実施されることがあるので、交通戦略であるならば、通行機能もしっかり確保したうえで賑わいの空間を確保する議論をしていただければと思う。

(事務局)

- ・グリーン大通りの歩道は10m程度の幅員があり、イベント時には歩行者の通行空間として3.5mを確保した計画として実施しており、賑わいの空間と通行空間を分けてしっかり確保している。

(椎名部員)

- ・配慮して計画しているのであれば、しっかり通行空間を確保したうえでイベントの空間を確保するということを記述して欲しい。

(中村部会長)

- ・たしかに、片方向の考え方に偏ってしまう傾向がある。歩道には通行機能や場の機能など様々な機能があるが、最近タクティカル・アーバニズムという場の機能が注目されている。しかし、本来の通行機能があったうえで場の機能を加えていく、それが歩行空間に色々な価値を生んでいくのだと思う。通行機能を捨ててよいということではない。したがって、書き方だとは思いますが、説明を加えるとして「本来の通行機能に加えて場の機能というのが注目されていて、バランスをとった歩行者空間にしていく」云々の文章は考えてみて欲しい。

(坂本副部会長)

- ・滞在時間のKPIの設定について、スマホアプリ「SilentLog」のデータを使って滞在時間を集計するということが、iOSのみのアプリということもあり、統計的に問題ないか。また、アプリサービスなので突然サービスが終了したり内容や費用の変更があったりする可能性もゼロではないので、代替手段を確認しておいた方がよいと思う。

(事務局)

- ・データの整理は途中段階であるが、統計的には問題ないことを確認している。引き続き確認作業を進めたい。アプリサービスが終了した場合の代替手段についても、他のサービスを利用するなどが可能と考えており、対応は可能と考えている。

(中村部会長)

- ・近年、この種のデータを使う機会が増えてきているが、突然サービスが終了することはありえる。一方、複数のサービス提供事業者があるので、いざという時はいつでも乗り換えるという腹案を持ちつつ上手に使っていくしか、現状ではないかと思っている。複数の手段(データ)を比較したうえで、スマホアプリデータを使うと決めたということなのでこれでよいと思うが、坂本副部会長からの指摘は確認しておいていただきたい。

(事務局)

- ・承知した。

(中村部会長)

- ・「資料3：池袋副都心交通戦略の更新」については経過報告なので承認事項はないが、宜しいか。

(一同)

- ・異議なし。

VII. その他

(事務局)

- ・次回の部会については、2月頃を予定しているが、後日改めて連絡する。
- ・また、スケジュールに変更が生じた場合は、適宜ご連絡させていただく。

以上